かながわ考古学財団入門講座

～ようこそ考古学～

第４回　テーマ　発掘調査報告書の読み方・調べ方

日　時：　１１月１６日(金) 19:00～20:30

場　所：　かながわ県民センター 301 会議室（横浜駅西口徒歩５分）

講　師：　依田　亮一（かながわ考古学財団）

費用・定員：　（費用）無料　　（定員）９０名

申し込み方法：　往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団野庭出土品整理室へ

発掘調査成果展示会

日　程：　１０月　３日(水)～１０月　８日(祝)

時　間：　9:30～17:00（８日は 9:30～15:30）

場　所：　栄区民文化センター　ギャラリー（JR 本郷台駅徒歩５分）

内　容：　発掘調査成果パネル展示・出土遺物展示

費　用：　無　料

発掘調査成果発表会・公開セミナー

日　時：　１０月　８日(祝)　9:45～16:30

場　所：　あーすぷらざホール　栄区民文化センター隣り（JR 本郷台駅徒歩５分）

費　用：　無　料

第Ⅰ部　平成 18 年度の発掘調査成果発表会

第Ⅱ部　公開セミナー「葬られるもの-被葬者・他界観にせまる-」

特別講演「墓にみられる格差は何を意味するのか？-階層化社会をめぐって-」

中村大（國學院大學）

こたえ

弥生時代～古墳時代の前期のお墓から出土する壺には、底などに穴が開けられていることがあります。底部穿孔（ていぶせんこう）壺と言います。この時代の素焼き壺は、日常生活で使用しているものと、お墓で使用しているものと、形の違いが無かったようです。そこで、お墓で使うものとして区別するために、穴が開けられていたのだと考えられます。

最近でも、お墓で使うお茶碗の口を、わざと打ち欠いたりしています。そんなところからこの説は考え出されました。

（前のページの写真は、海老名市中野桜野遺跡方形周溝墓出土の穿孔壺土器です。）

バックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。

お申し込みお問い合わせ

（財）かながわ考古学財団　野庭出土品整理室
〒234-0056　横浜市港南区野庭町 1660　E-mail:fukyu@kaf.or.jp
TEL：045-842-9888（平日 8：30～17：15）　FAX: 045-842-9904

考古学財団発掘帖

2007 2号

かながわ考古学財団情報誌　通巻 2号　　平成19年9月24日発行　年4回発行

海老名市　河原口坊中遺跡（かわらぐちぼうぢゅう いせき）

河原口坊中遺跡は JR 相模線・小田急線厚木駅の北西1kmのところに位置し、相模川東岸の標高 21～22mの自然堤防に立地しています。さがみ縦貫道路建設に先立ち調査しています。今年度の調査では弥生時代中期頃（約 2000 年前）のものと思われる古い川跡が、地表面下 4～5m位の深さから発見されました。川跡からは土器の他に、鍬（くわ）・鋤（すき）などの木製農具をはじめ、火おこしの道具である火鑽臼（ひきりうす）・高坏・杭・板材などたくさんの木製品が見つかりました。その他にイノシシやシカの骨や歯・角、玉虫などの昆虫の羽、クルミなども見つかっています。

目　次

- 発掘現場・出土品整理　海老名市：跡掘遺跡
- インフォメーション　横浜市：原宿町遺跡
- イベントレポート　夏休み考古学教室 2007
- 考古学ミニコラム　前期旧石器その後の始まり（2）
- くいず
- 行事案内　入門考古学講座　ようこそ考古学
- 発掘調査成果展示会
- 発掘調査成果発表会・公開セミナー

考古学財団

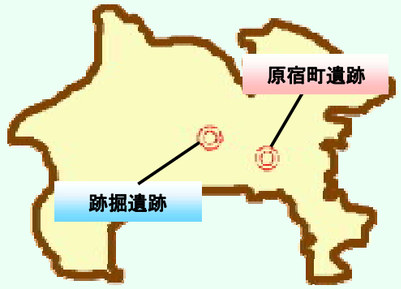
(財)かながわ考古学財団　電話 045－252－8689

〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1　FAX 045－261－8162

URL http://www.kaf.or.jp

発掘現場・出土品整理インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡（相模原市）の
はちまき土偶はっちです。発掘調査や
出土品整理中の遺跡の紹介をします



跡堀遺跡（あとぼり　いせき）

（所在地）	海老名市	（時代）	近世・中世・古代・古墳時代～弥生時代	（調査期間）	2004 年 10 月～2006 年 11 月

遺跡は JR 相模線の門沢橋駅から北西約 500m、相模川左岸に位置します。さがみ縦貫道路建設に先立ち調査しました。中心となる時代は近世と中世です。

近世では土坑・溝状遺構・井戸・水田跡などの遺構が発見され、17～18 世紀代を中心とする遺物が発見されています。遺物は主に陶磁器で、瀬戸美濃製の陶器や唐津などの肥前系の磁器が多く、その他に漆器や寛永通宝なども見つかっています。居住に関連する遺構が見られず水田跡が発見されていることなどから、耕作地及びその周辺であったと考えられます。

中世では掘立柱建物・土坑・溝状遺構・井戸・ピット群・竪穴状遺構などの遺構が発見されています。遺物は青磁・白磁・青白磁などの舶載品、常滑・渥美・瀬戸美濃などの国産陶器や木製の舟形や櫛などが出土しています。青磁では酒会壺という非常に珍しいものが出土しています。遺構の配置や出土遺物から豪族の居館との関連が考えられます。

このほか、古代では竪穴住居跡・掘立柱建物・土坑・溝状遺構が数基ずつ発見され、古墳時代～弥生時代では土坑や溝状遺構が数基ずつ発見されました。遺物の出土量はいずれも少量で、遺構の遺存状態も良好ではありませんでした。

▲中世の礎板を持つ掘立柱建物（2005 年）

原宿町遺跡（はらじゅくちょう　いせき）

（所在地）	横浜市	（時代）	近世	（調査期間）	2002～2007 年

原宿町遺跡は、JR戸塚駅の南西約 4.5 ㎞の国道１号線沿いに位置します。調査は、一般国道１号原宿交差点改良事業に伴い、調査しました。

遺跡の所在する戸塚区原宿２～５丁目付近は、江戸時代には原宿村と称する総戸数 50 戸ほどの農村でしたが、東海道が村の中央を通り、宿場町である戸塚と藤沢の中間に位置していたため、馬を継ぎ立てたり、人足や駕籠などが休息するための「立場」が設けられていて、「間の宿」としての役割を果たしていました。

発掘調査は主に江戸時代の集落跡を対象としており、掘立柱建物跡、井戸、溝状遺構などの遺構や、陶磁器、土器、土製品、銭貨、金属製品、ガラス製品、石製品が発見されています。

写真は 2005 年度の調査で出土した軟質磁器製の西洋皿です。内面は銅版転写により風景文が描かれており、外面底部には「PALESTINE」、「J. &M. P. B&CO. 」の文字が認められます。スコットランドのグラスゴーで幕末～明治初頭頃に焼かれた製品と考えられます。

▲西洋皿

イベントレポート　体験考古学

体験考古学では遺跡の発掘調査や、その後に行う出土品整理作業がどのような目的・手順で行われているのかを中学生・高校生に体験してもらいました。期間は２日間で、８月７・８日に中学生、８月９・10日に高校生がそれぞれ参加しています。

体験の工程は、第一日目に伊勢原市№160 遺跡で古代の竪穴住居跡の発掘体験や測量体験、遺物洗浄体験をしました。第二日目は、野庭出土品整理室で遺物接合体験、拓本体験、土器の撮影体験、石器（黒曜石製石鏃）製作体験をしています。

炎天下の発掘はとても暑かったですが、遺物が出た時は嬉しさが伝わってきました。また、竪穴住居跡を掘りながら、その構造に興味を持った参加者もいました。石器製作体験では、黒曜石がカッターより鋭い切れ味であったことに皆で驚きました。鹿角を使った小さな石鏃の製作も皆さんうまくできました。参加した中学生・高校生の皆さんご苦労様でした。また参加してくださいね。

※体験考古学は、神奈川県より委託を受けた普及活用事業です。

考古学ミニコラム

－第2回－

考古学のホットな話題や資料の見方をとり上げたり、講座等で多く寄せられた質問に答えます。

－　前期旧石器その後の始まり（2）　－

（前号に続く）前・中期旧石器問題の検証作業が行われる一方で、前・中期旧石器の可能性が高い資料も確認されてきました。岩手県遠野市の金取遺跡では 1984 年の調査で石器が出土していたのですが、その出土層位が9万～8万年前に堆積した火山灰であることが判明しました。長野県飯田市の竹佐中原遺跡では、2001 年の調査で3万年以上前に遡る石器群が見つかっています。鹿児島県種子島町の立切遺跡では、3万年以上前の石器に加えて、焚き火の跡や石蒸し料理などの生活跡が見つかっています。神奈川でも綾瀬市の吉岡遺跡群D区のB5層において発見された資料が、県内最古の資料として報告されており、約3万年前の後期旧石器時代開始期前後の石器群と考えられます。今後の旧石器時代研究は捏造問題の反省にたち、新たな事実の解明にとりくんでいくことになります。

▼吉岡遺跡群Ｄ区のＢ５層出土石器

こたえは、次のページ